

# 水稲

## 夏場の水稲管理

中生・晩生の水稲では7月下旬頃の最高分げつ期、8月上旬の幼穂形成期を経て、8月末頃の出穂期まで穂作りの重要な時期に入ります。また、生育の中では最も暑い時期を過ごすこととなり、台風の影響も予想されます。この時期の管理で重要なのは、水管理と病害虫防除です。

### 《大事な水管理》

土用干し以降は、基本的には間断灌溉（3日灌水4日落水）を実施します。栽培層にある2回施肥や低コスト施肥例などを活用している生産者は、穂肥施用2〜3日前には入水し、施用後は、3日間程湛水状態を保ち、肥料の吸収を促します。図に示したように穂ばらみ期には、少し長く水を溜めておきます。

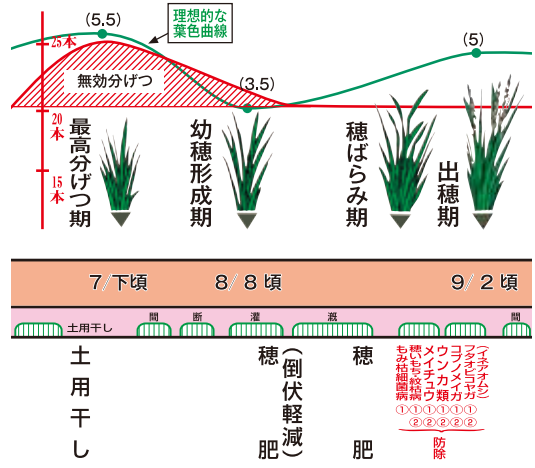


図 ヒノヒカリ・きぬむすめ 栽培暦より

- 《猛暑対策》
- ◎ 稲の過繁茂防止に努めます。
- ◎ よりこまめな間断灌溉で根の機能活力維持を図ります。
- ◎ 冷たい水との入れ替えなど、地温、気温の低下に努めます。特に日中の気温が35℃、夜温が25℃を超える場合は、かけ流し灌水が有効とされています。

### 《病害虫防除》

出穂前後に病害虫の被害を受けると、米の品質・収量に大きく影響します。散布適期は、穂ばらみ期（出穂直前）と穂ぞろい期の2回です。（栽培暦参照）

◎ 病害Ⅱ紋枯病、いもち病や、近年、話題となっている稲こうじ病などが挙げられます。

「稲こうじ病の発生要因は、①前年の発生が多かった圃場で、土壌中の菌密度が高い（菌「胞子」は、2年は生存）②出穂前20日間に低温多雨の気象条件③生育後半の窒素が多い。（倒伏が懸念されるような稲体）となっています。稲こうじ病対処薬剤については、（表1）を参考にしてください。（なごみ第163回2016/7月号引用）」

◎ 害虫Ⅱイネツトムシ、フタオビコヤガ（イネアオムシ）、コブノメイガやウンカ類（セジロウンカⅡ夏ウンカ、トビイロウンカⅡ秋ウンカ）などです。病害虫が多発した場合には、状況に応じた防除が必要になってきます。

### 《倒伏軽減剤の施用》

晩生品種の朝日やアケボノの倒伏に対する備えとして、ロミカ粒剤が有効です。施用時期は第1回目の穂肥の頃、出穂10〜25日前です。

曇天日は400cc程度ですが、本葉が展開するまでは、蒸散量が少なく、徒長しやすいので少なめとします。育苗後半では葉色を見ながら薄めの液肥を、灌水を兼ねて散布します。

### 3. 高温対策

葉菜類は本来涼しい気候を好む品目なので、夏季の育苗ではできるだけ涼しくするように努めなければなりません。対策としては、①夏の直射日光を避けるため、遮光率30〜50%の遮光資材を天張りする②風通しの良い場所で育苗する③白色セルトレイを使用する、などです。また、セルトレイは地べたに置かず、コンクリートブロックや板などで棚を作りその上で育苗すると余分な水分が落ち、根鉢が形成されやすくなります。



育苗棚設置の例

### 4. ハイマダラノメイガ (別名シンクワイムシ) 対策

育苗期から多くの害虫に狙われますが、特に気をつけたいのがハイマダラノメイガです。この虫は植物の生長点を食害するため、苗として使用できなくなります。本葉が展開する頃から特に注意して観察し、発見したらアファーム乳剤などで速やかに防除しましょう。

さらに定植後にも被害を受けやすいので定植の3〜5日前に、プレバソンプロアブル5など残効が比較的に長い殺虫剤の灌水を行います。

### 《台風対策》

◇ 通過前  
事前に排水路の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備え、風が強い場合は、やや深水にして稲体を護ります。

◇ 通過後  
冠水した場合、葉先を水面に出すよう速やかな排水に努めることが大切です。白葉枯病等の常習田では、事前にルーチン粒剤などの殺菌剤を散布しましょう。

### 《出穂期について》

薬剤防除に出穂期が関与する場面があります。出穂期は、品種や地域によって違いがありますが、配布している暦や（表2）を参考にしてください。（営農部 本田 隆志）

表1 稲こうじ病対処薬剤の例

薬剤の種類	散布期間
ゴウケツモンスター粒剤	出穂期18〜14日前
ガツスター粒剤	出穂期18〜14日前
ドイツボルドーA	出穂期21〜10日前
撒粉ボルドー粉剤DL	出穂期21〜10日前
Zボルドー粉剤DL	出穂期21〜10日前
モンガリット粒剤	出穂期21〜14日前
モンガリット1キロ粒剤	出穂期21〜14日前

注 ゴウケツモンスター粒剤とガツスター粒剤は、農薬名は異なりますが含まれている有効成分は同じです。

表2

品種：ヒノヒカリ 2018/6/10 計算値  
田植時葉数（不完全葉含） 3.5 葉

出穂期	田植日		
	6月10日	6月15日	6月20日
地点			
倉敷市	8月27日	8月30日	9月2日
総社市	8月29日	9月1日	9月4日
笠岡市	8月26日	8月29日	9月1日
浅口市	8月27日	8月30日	9月2日
井原市	9月1日	9月4日	9月6日

注) 水稲予測デスクトップによる予測値、参考程度に利用することが要求されています。

# 園芸

## 葉菜類の高温時育苗について

葉菜類の夏播き作型では、苗作りが特に重要です。7月号では良苗をつくるためのポイントをご紹介します。

### 1. 徒長させずガッチリした苗を作る

徒長すると軟弱になり病害虫の被害を受けやすくなったり、倒れやすくなったりするので定植や土寄せなどの作業効率が悪くなります。徒長の原因として①水分過多 ②光量不足 ③高温などがあげられます。

よくある失敗が発芽直後の被覆除去の遅れによる徒長です。播種後灌水をした後は、発芽まで乾燥させないために新聞紙などをべた掛け被覆します。高温条件下では発芽が不揃いになりやすいので、全ての発芽まで被覆をしていると、早く発芽した株が徒長してしまいます。そのため大体3割程度発芽したら被覆を除去し、発芽が揃うまで日陰に置き、その後、日光が当たる場所に移動させて育苗を行います。



徒長苗



適正苗

### 2. 灌水

灌水は原則として、朝に行い、夕方には培土の表面がうっすら乾く程度にします。量の目安は、晴天日は1トレイにつき700cc、

### 5. 根こぶ病対策

根こぶ病はアブラナ科共通の重要病害です。アブラナ科連作地、酸性土壌などの条件で発生しやすくなります。発病すると根が機能しなくなり、地上部がしおれてしまいます。対策としては定植前に薬剤処理を行います。

具体的には①定植圃場にオラクル粉剤か、フロキサイド粉剤を土壌混和する。②定植前日〜当日に苗箱にランマンフロアブルを灌水する、などがあります。

併せて根こぶ病抵抗性品種を利用するのも効果的です。

(注意) 記載している農薬はキャベツ、ブロッコリー、ハクサイの例です。農薬使用前には必ずラベルを確認し、登録内容にしたがって使用してください。



根こぶ病



ハイマダラノメイガ